



未来を拓く心豊かでたくましい生徒の育成

杜の風

成田市立公津の杜中学校 学校だより「杜の風」 令和2年度 第3号（5月18日発行）

成田市公津の杜 5-29 ☎0476-20-5511 jh-mori@edu.city.narita.chiba.jp



学校HP

前号では、「体内時計を整えるために始めたい7つのこと」を紹介しましたが、取り組んでいるものはありますか。皆さんが体内時計を整え、家庭学習を充実させることを期待しています。

さて、今回の自粛期間中にインターネットを利用する時間が増えた人は、世代を問わずたいへん多いと思いますが、せっかくインターネットを利用するのであれば、中学生の皆さんには、少しずつニュースを読む時間を増やしていくことを期待します。ニュースサイトによっては、興味のあるジャンルを登録できる場所もありますから、あなたにとって親しみやすい分野の話題からニュースに触れる機会を増やしていくとよいでしょう。



そして、気になるニュースについて、家族や友達など身近な人に「今日はこんなニュースがあったね」と話してみてください。すると、仮にあなたが「大変だ」と感じていたとしても、相手は「そんなの想定内だ」と返してくるかもしれません。また、あなたが「何か事情があったのかもしれない」と落ち着いて話すことについて、相手は「許せない」と怒りをあらわにするかもしれません。何気ないやりとりの一場面ですが、実はこの《違い》こそ、あなたの考え方を深めるチャンス、学びを深める好機なのです。

《違い》に直面したら、とたんに話をやめてしまうのではなく、「どういうこと？」と相手の考えに耳を傾けたり、自分の考えを説明したりしてみましょう。考えを修正することになるかもしれませんが、仮に《違い》が残ったままであっても、それを認め合い尊重し合うことにつながればよいのです。学校の授業と同じですね。

学校では、3密を避けるため、もうしばらくの間、《対話》の場面を取り入れた活動ができませんが、皆さんの日常生活の中にも《対話》のチャンスはたくさんあります。生かしていきましょう。



基本的な生活習慣を整えよう！

今号は、食生活の充実について考えてみましょう。

① 家族で食事をする頻度を上げてみましょう

子どもの生活に関する調査研究で、「食事をひとりで食べる小中学生は、『何もやる気が起らない』頻度が高い傾向にある」、また「食事をひとりで食べる小中学生ほど、『イライラする』頻度が高い傾向にある」ことが報告されています。（文部科学省「子どもの生活リズム向上ハンドブック」より）



普段は家族それぞれが多忙で、そろって食事をするのが難しいかもしれませんが、家族と一緒に過ごす時間が増えた今は、食習慣を見直すチャンスです。一日に一度、あるいは週に何度かでも、家族でそろって食事をする回数を増やしてみませんか。

② 食事を作る経験を！

かつて日本では「あなたは作る人、私は食べる人」というように、家族の中で食事に関する役割分担が固定していた時代がありました。しかし、現代は、さまざまな家事を、役割を固定せずに分担する時代です。特に食事は、家族の生命・健康を維持する根幹的な営みですから、中学生がその営みを担うことにより、男女を問わず「自己存在感」「自己肯定感」が高まるのが期待できます。



食事には、「献立を考える」「買い物をする」「作る」「配膳する」「片づける」など多くの役割があります。初めから全てを担当しようとするのではなく、何か一つから始め、少しずつ増やしていくとよいでしょう。

インターネットで「中学生」「レシピ」で検索すると、簡単に作れるレシピが多数紹介されています。ぜひ挑戦してみてください。また、これを機に、日ごろから家事を分担する習慣ができるといいですね。

家庭学習を充実させよう！

① 学んだことを誰かに話そう

勉強をして知識を身に付けたり、メディアなどから新しい情報を得たりすると、誰かに話したくなるものですが、皆さんは誰かに話していますか。今日からは、ぜひ学んだことや知ったことを家族に話してみてください。もちろん初めから上手に話せなくても大丈夫。話すことで知識が定着したり、不確かな点が明らかになったりします。



② 話し上手を目指そう

皆さんの周りに《話すのがうまい人》はいませんか。

分かりやすくて印象に残る話し方は、どうすれば身につくのでしょうか。何に気をつけると《話し上手》になれるのでしょうか。今日学んだことや知ったことを家族に話しながら、ぜひ考えてみてください。そして、学校が再開されたら、ぜひその力を発揮してください。

家庭教育のポイント



書店で新刊を手に取りながらじっくり時間をかけて本を選ぶ。週末の図書館で好きな本を閉館まで読みふける。そんなかつては当たり前だった時間が、実は貴重であったと気づく今日この頃ですが、STAY HOME の日々の中にも、“家の中の本棚を整理していたら昔夢中になって読んだ本が出てきた”とか、“同じ本を読んだ人と急に仲良くなれた”など、本に出合うチャンスや喜びはまだまだまだたくさんあります。今号は読書についてです。読書は「家庭教育」「しつけ」と肩に力を入れるのではなく、一緒に楽しむことがポイントです。

□ 家族みんなが読書をする習慣がありますか？

子どもが読書をするようになるための最大の決め手は、身近な人が読書をしている姿であると言われています。まずは好きな本から始め、慣れてきたらさまざまなジャンルの本に手を伸ばしてみましょう。読む力や聴く力、理解力、思考力、想像力、表現力、自己決定力などが高まります。また、家族で読書タイムを設けたり、親子で本を紹介し合ったりすると、家族の絆が強くなります。

(参考：「家庭教育リーフレット中学生版」千葉県教育委員会)

お知らせ

小中学生の保護者を対象とした「インターネット接続環境に係る調査」（本校では、4月18日～22日に、安全安心メールのアンケートにより実施）について、結果（市平均と本校）は次のとおりでした。この結果は、成田市が今後の児童生徒の学習支援について参考とするために活用されます。ご協力いただき、ありがとうございました。

(%)

	お子様（小中学生）の数			インターネット 接続できる パソコンあり	インターネット 接続できる タブレットあり	インターネット 接続できる スマホあり	通信量 制限なし
	1人	2人	3人				
市平均	44.2	46.0	9.8	60.0	52.7	63.0	79.1
本校	50	41	9	67	56	81	84